

岐阜県家庭教育学級実践事例

在宅取組型(中学校)

学校名等	安八町立登龍中学校
実施日時	R7年7月20日(日)~8月28日(木) 夏季休業中
会場	各家庭
参加人数	保護者239人(生徒262人)
学習課題(分野)	家族の食事を作ろう！(命の大切さ・家族の大切さ) 家庭での食事、お弁当を家族と相談しながら作る
運営者の願い	家族と一緒に相談したり、調理したりすることで、ふれあいの時間を持ち、食事を作ってくれる家族への感謝の気持ちを表すことができる。また、食への関心を高めたり、家族のためにできた達成感や自己肯定感をもつことができるとよいと思い実践した。

学習の内容

<取組方>

- ① 案内文の発送
- ② 夏休みに各家庭で実践
- ③ 実践カードの回収
- ④ PTA 実行委員で代表作品の選出
- ⑤ カードのファイリング
- ⑥ 個人懇談で展示
(ファイルを保護者に見ていただく)

- ① 目標を立てる
- ② お弁当・おかずを決める
- ③ 具材の相談
- ④ 手順の確認
- ⑤ 下準備・調理
- ⑥ 記録・感想の記入

<実践終了(カード提出)後>

PTA 実行委員が、提出されたカードの中から、学年1点~2点選んで、作品に付箋をつけて投票した。各学級で1点以上入賞作品を選んだ。PTA会長と校長先生には、特別賞として「PTA会長賞」「校長賞」を選出してもらった。



<作品のファイリングと懇談時の展示>

選ばれた作品には王冠シール・賞を貼り、学級ごとにファイルに入れる。個人懇談時の待ち時間に保護者に見ていただけるよう展示した。



<アンケートより>

- ・ 弁当を作ってみたら、一品作るだけでも大変でした。毎日ご飯を作ってくれる母さんは、すごいと思いました。(1年)
- ・ 家庭科で習った五大栄養素を意識し、簡単に五大栄養素をとれるメニューを考えて作りました。(2年)
- ・ 短時間でたくさんの食品を作るのは、順番が大事ということがわかりました。(3年)
- ・ 難しいものではなかったけれど、すべて自分だけで作れたことが立派です。彩もよく、お弁当箱を開けた時に嬉しくなりました。会社の人にもおいしそう!彩りいいね!と言ってもらえました。(保護者)
- ・ 彩りやバランスを考えて作ってくれました。見た目も味もよく、とてもおいしかったです。ありがとうございます。これからも挑戦してね。(保護者)



家族の大切さを実感

提出された実践カードを見ると、どの子も、家庭で相談して実践できたことや家族のために、好きなもの・栄養面、食べやすさなどよく考えて作っていた。毎日、自分のために頑張ってくれる家族への感謝の気持ちを伝える機会になった。家族のことを考える機会、コミュニケーションを増やす機会になっていた。



子どもの成長

どの家庭もおうちの方が子どもの頑張りを認め、ほめる言葉が書いてあったことが印象的だった。大人顔負けの料理を作っている子もいて、子どもたちのすごさを感じた。家族の一員として自覚をより高めてくれるとよい。